

④研究集会・講座等に関する事業一覧

プロジェクト名	担当部門	頁
平成26年度オープンレクチャー（調査・研究成果の公開）（企10）	企画情報部	71
第9回無形文化遺産部公開学術講座（*無01）	無形文化遺産部	72
無形民俗文化財研究協議会（*無02）	無形文化遺産部	72
文化財の保存環境に関する研究会（*保修03）	保存修復科学センター	73
文化財における伝統技術及び材料に関する研究会（*保修06）	保存修復科学センター	73
近代の文化遺産の保存修復に関する研究会（*保修01）	保存修復科学センター	74
総合研究会（企）	企画情報部	74
企画情報部研究会（企）	企画情報部	75

- *注 ・第9回無形文化遺産部公開学術講座は、無形文化財の保存・活用に関する調査研究（①無01）の一環として実施した。
- ・無形民俗文化財研究協議会は、無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究（①無02）の一環として実施した。
 - ・文化財の保存環境に関する研究会は、文化財の保存環境の研究（①保修03）の一環として実施した。
 - ・文化財における伝統技術及び材料に関する研究会は、伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究（①保修06）の一環として実施した。
 - ・近代の文化遺産の保存修復に関する研究会は、近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究（①保修07）の一環として実施した。

平成26年度オープンレクチャー（調査・研究成果の公開）（④企10-14-4/5）

目 的

企画情報部の美術史研究の成果を一般に公表することを目的として開催。今回で48回目を迎えた。

成 果

1. 第48回企画情報部オープンレクチャー「モノ／イメージとの対話」と題して4講演を2日間にわたり開催した。
 第1日目：2014（平成26）年10月31日（金）13:30～16:30 東京文化財研究所地下セミナー室
 「一流相承系図（絵系図）の構想と機能」津田徹英（文化形成研究室長）
 「院政期絵画における二つの美の原理—似絵の成立をめぐる—」伊藤大輔（名古屋大学大学院教授）
 第2日目：2014（平成26）年11月1日（土）13:30～16:30 東京文化財研究所地下セミナー室
 「仙台・昭忠碑、被災から復興へ向けて」塩谷純（近・現代視覚芸術研究室長）
 「戦争の「表象と本物」」河田明久（千葉工業大学教授）
2. 参加者数：のべ163人。聴講者にアンケートを実施したところ、127人から回答を得た（回収率：78%）。満足度に関する回答結果は、「たいへん満足した」43人、「おおむね満足した」70人、「普通だった」7人、「不満が残った」2人、無回答5人。アンケート回答者の82.7%から満足感を得た。
3. 4講演のうち、「一流相承系図（絵系図）の構想と機能」については、次年度刊行の『美術研究』に講演内容を踏まえ、次年度の『美術研究』に論文として掲載することが『美術研究』編集会議で承認された。



オープンレクチャーの開講（第1日目）



「オープンレクチャーのご案内」

第9回無形文化遺産部公開学術講座 (①無01-14-4/5の一部として実施)

2014(平成26)年10月18日、東京国立博物館平成館大講堂において、「流行歌としての道行―「海道下り」を中心とした能・狂言歌謡の源流と広がり―」と題して公開学術講座を行った。入場者数189名。

プログラム

- 講演1 岡田三津子(大阪工業大学)「宴曲〈海道〉の文学史―忘れられた流行歌謡―」
- 講演2 高桑いづみ(無形文化遺産部)「放下の歌と能・狂言」
- 実演1 〈海道〉から能狂言へ
- 実演2 放下の歌
- 実演3 小歌のいろいろ
- 実演 佐藤友彦(和泉流狂言師)・朝倉俊樹(宝生流能楽師)・日吉栄寿(長唄三味線演奏家)

無形民俗文化財研究協議会 (②無02-14-4/5の一部として実施)

無形文化遺産部では、無形民俗文化財の保存・継承に寄与することを目的として、毎年無形民俗文化財研究協議会を開催してきた。第9回にあたる本年度は、「地域アイデンティティと民俗芸能―移住・移転と無形文化遺産―」をテーマとし、様々な理由で故郷を離れざるを得ない状況において、民俗芸能が故郷のアイデンティティを保持する上でどのような役割を果たすのかについて、報告・総合討議を行った。その成果は報告書として刊行した。

日時：2014(平成26)年12月5日(金) 10:30~17:30

会場：東京文化財研究所 地下セミナー室

参加者：128名

テーマ：地域アイデンティティと民俗芸能―移住・移転と無形文化遺産―

内容：

【発表】

舟山直治(北海道開拓記念館主任学芸員)「北海道への移住と民俗芸能」

入澤紀(東京八重山郷友連合会文化部部长)「沖縄の郷友会と民俗芸能」

映画上映「土徳流離～相双地方復興への悲願」(青原さとし監督)

青原さとし(ドキュメンタリー映像作家)「福島県相双地方が培った真宗移民文化―制作中の映画『土徳流離』からの報告」

丸尾依子(山梨県立博物館学芸員)「過疎集落の民俗芸能を継承する人々」

【総合討議】

上記報告者と下記コメンテーター、コーディネーターによる総合討議を行った。

コメンテーター：星野紘(東京文化財研究所名誉研究員)、高倉浩樹(東北大学東北アジア研究センター)

コーディネーター：久保田裕道(無形文化遺産部)

総合司会：今石みぎわ(無形文化遺産部)

文化財の保存環境に関する研究会 (①必修03-14-4/5の一部として実施)

「文化財の保存環境の研究」プロジェクトでは、文化財を取り巻く温湿度環境が文化財へ与える影響、温湿度環境の予測や制御に関する研究を行っている。本研究会では、文化財の展示施設・収蔵施設における空調設備を用いた温湿度制御の事例、展示ケース内における温湿度や空気質を調査した事例、コンピューターシミュレーションを用いた温湿度環境の予測及び実測値との比較等の事例を通じて、文化財の保存環境に関する情報の共有とディスカッションを行った(犬塚将英、佐野千絵)。

文化財の保存環境に関する研究会「文化財の保存環境の制御と予測」

日 時：2015(平成27)年2月9日(月) 13:30～17:30

会 場：東京文化財研究所 地下会議室

参加者：29名

講演者：犬塚将英(東京文化財研究所)「趣旨説明」

権藤尚(鹿島技術研究所)「上原近代美術館の室内環境とエネルギー消費量に関する検討」

北原博幸(トータルシステム研究所)「文化財保存に向けた既存空調設備導入の課題と対応例」

古田嶋智子(東京文化財研究所)「実大展示ケースを用いたケース内ガス濃度の測定」

間淵創(三重県総合博物館)「LED照明を用いた展示ケース内の温湿度分布調査」

犬塚将英(東京文化財研究所)「日岡古墳の保存施設内における温熱環境の調査」

安福勝(近畿大学)「壁面上降雨量と壁体の応答予測に関する一連の研究」

総合討論

文化財における伝統技術及び材料に関する研究会 (①必修06-14-4/5の一部として実施)

平成26年度は、塗装彩色修理が終了した日光東照宮陽明門西壁面唐油蒔絵の調査と修理について取り上げた研究会を開催した。この研究会は、平成21年度に開催した第3回研究会の「建築文化財における漆塗料の調査と修理―その現状と課題―」、平成23年度に開催した第5回研究会の「建築文化財における伝統的な塗料の調査と修理」、平成24年度に開催した第6回研究会の「建築文化財における塗装彩色部材の劣化と修理」、平成25年度に開催した第7回研究会の「文化財建造物における木彫彩色の調査・修理・資料活用」の続編ともいえる内容である。研究会では、陽明門の大羽目板に彩色された油彩画である唐油蒔絵調査と修理に直接関係したそれぞれの講師から、最新の情報を提供いただいた(北野信彦)。

第8回文化財における伝統技術及び材料に関する研究会「日光東照宮陽明門西壁面唐油蒔絵の調査と修理」

日 時：2014(平成26)年12月18日(木) 13:15～17:30

会 場：東京文化財研究所 セミナー室

講演者：浅尾和年(日光社寺文化財保存会)「日光東照宮陽明門における塗装彩色修理の概要」

犬塚将英(東京文化財研究所)「唐油蒔絵のX線透過撮影による画像調査」

本多貴之(明治大学)「唐油蒔絵の塗料を構成する成分調査」

北野信彦(東京文化財研究所)「唐油蒔絵の顔料・塗装構造」

中右恵理子(油彩画修理技術者)「唐油蒔絵の修理」

佐藤則武(日光社寺文化財保存会)「唐油蒔絵の調査と修理に関するまとめと今後の課題」

近代の文化遺産の保存修復に関する研究会 (①必修07-14-4/5の一部として実施)

平成26年度は、近年ユネスコによる世界記憶遺産にも登録された、山本作兵衛が描いた筑豊炭田の記録画(2011)、慶長遣欧使節関係書類(2013)、御堂関白記(2013)の3件にも代表される様に、紙資料類が注目されており、それらは今後も増える事が予想される。これらの紙文化財の保存と修復という作業が今後発生する事は避け得ない事であり、当所でも取り組みを強める必要がある

書籍あるいは紙資料保存の世界では、既にインク焼けの問題や紙の酸性紙化等への取り組みが進められているが、こうした保存と修復手法のすべてをそのまま文化財に対して適用できるかどうかの検証はなされておらず、早急に確認する必要がある。今回は特に近年の重要な課題として多くの専門家の関心が集まっている酸性紙の保存と修復、没食子インクを使った文書の保存と修復などを代表的な問題として、国内外から書跡や資料保存の保存と修復に携わっている専門家を講師として招き、研究会を実施した(中山俊介)。

第28回近代の文化遺産の保存修復に関する研究会「洋紙の保存と修復に関する研究会」

日時：2014(平成26)年11月21日(金) 10:00~17:30

会場：東京文化財研究所 セミナー室

講演：中山俊介(東京文化財研究所)「洋紙の保存と修復」

安江明夫(学習院大学非常勤講師アーカイブ学専攻、元国立国会図書館副館長)

「近現代紙資料の保存—図書館・アーカイブズの視点」

横島文夫(株式会社 プリザベーションテクノロジーズジャパン)「酸性紙と大量脱酸処理」

小笠原温(株式会社 修護)「日本の近現代紙資料修理への装こう修理技術の応用」

アレハンドラ・オドア・チャベス(メキシコ国立公文書館)

「メキシコ国立公文書館における没食子インクによる劣化の修復—過去5年間の挑戦と成果」

アン・フランセス・メイヒュー(カナダ国立図書館・公文書館)

「カナダ国立図書館・公文書館における洋紙の地図、手書き文書及びその他の洋紙の収蔵品の保存と修復の挑戦」

総合研究会 (④企)

総合研究会は、各研究部・センターの研究員がプロジェクトの成果や経過を発表し、その内容に関して所内の研究者間で自由に討論する場である。平成26年度は下記のスケジュールで実施した。

- ・第1回 2014(平成26)年9月2日(火)
発表者：佐野千絵、早川典子、犬塚将英(以上、保存修復科学センター)「国際文化財保存修復学会(ICC)香港大会での研究成果発表」
- ・第2回 2014(平成26)年11月4日(火)
発表者：菊池理予(無形文化遺産部)「染織技術の伝承における道具の役割—熊谷染を事例として—」
- ・第3回 2015(平成27)年1月13日(火)
発表者：皿井舞(企画情報部)「文化財アーカイブズ構築の取り組み」
- ・第4回 2015(平成27)年3月3日(火)
発表者：加藤雅人(文化遺産国際協力センター)「海外における日本の修復技術(和紙・装潢)の利用」

企画情報部研究会 (④企)

企画情報部ではほぼ月に1回のペースで美術史研究者を中心とする研究会を開催して、それぞれの研究やプロジェクトの成果を発表し、さらに討議によって充実を図っている。平成26年度の開催内容は下記の通り。

- 4月25日(金) 戦暁梅(東京工業大学)「廉泉の大村西崖宛書簡について」
- 5月22日(木) 研究会：国際シンポジウム「「かたち」再考—開かれた語りのために」を踏まえて
藤川哲(山口大学)「現代美術におけるかたち—国際美術展を中心に」
佐藤直樹(東京藝術大学)「かたちをめぐる日本美術史の可能性—西洋美術史からの視点」
- 6月24日(火) ミラー・アリソン(カンザス大学美術史学部)「貞明皇后のイメージ—二十世紀初頭の日本社会における「女らしさ」の変遷」
田中修二(大分大学)「彫刻家・新海竹太郎の遺した資料について」
- 7月29日(火) 津田徹英(企画情報部)「平安木彫像における内削りの始源をめぐって」
- 8月6日(木) 吉田千鶴子(東京藝術大学)「黒田清輝宛外国人留学生書簡 影印・翻刻・解題」
児島薫(実践女子大学)「藤島武二からの黒田清輝、久米桂一郎宛書簡について」
- 9月30日(火) 山梨絵美子(企画情報部)「黒田清輝『昔語り』再考」
田中淳(企画情報部)「岸田劉生と古屋芳雄—劉生の「駒沢村新町」療養期を中心に」
- 12月9日(火) 小林公治(企画情報部)「南蛮漆器書見台編年試論」
小林達朗(企画情報部)「東京国立博物館蔵 国宝・普賢菩薩像の表現—附論 仏画における「荘厳」」
- 1月27日(火) 川口雅子(国立西洋美術館)「美術文献情報をめぐる最近の国際動向—米国ゲティ研究所と「アート・ディスカバリー・グループ」目録」を中心に—」
- 2月17日(火) 稲葉真以(韓国光云大学校)「韓国の「東洋画」」
- 3月24日(火) 河合大介(企画情報部)「反芸術・脱主体化・匿名性—山手線事件と赤瀬川原平を中心に—」
橘川英規(企画情報部)「観光芸術多摩川展パノラマ図を観る—富士山、機関車、少女、井戸」